

防海試説

和書門類	一七四六〇號
函	一七三
架	一七三
冊	一七九

406

內閣文庫	和書類	一七四六〇號	一〇冊	八九函	一七架
------	-----	--------	-----	-----	-----

武備兵法

武備兵法

兵法六ノ一

內閣文庫	
番號	和 17460
冊數	10 (1)
函號	189 406

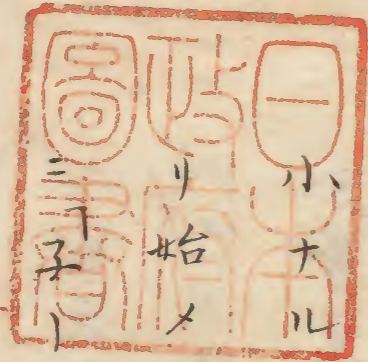
189-406



防海試說序

淺草文庫

我和蘭他邦ニ比スレハ海衛ノ事務甚ク緊要ナ
 リ如何トナレハ邦域濱海多ク且ツ國中甚ク偏
 小ナルヲ以テ近隣強國ヲ厄シ鬪戰多クハ我ヨ
 リ始メスノ彼ニ侵掠セラル、ヲ以テナリ是故
 デルランドノ軍士ハ常ニ心ヲ斯術ニ留
 メ尚之ニ関スル諸書ヲ檢索ス○軍將タルモノ
 ハ多分初ノ此防禦ノ術ヲ學テ規則トシ或ハ常
 ニ能其要領ヲ熟知ノ實地ニ臨テ室礙ナカラシメ



504 881

ナル可ラズ然レ氏或砲家ノ説ニ云ク海禦ノ術
ヲ学フハ僅ニ其大要ノミニ足レリト或云此
術ハ別ニ科目ヲ立テ学フニ足スト此ノ如ク世
人皆要實ナルモノトセガルヲ以テ其時ニ臨テ
一己ノ見ニ從テ遂ニ困約スルニ至ル之ヲ以テ
余等更ニ此術ヲ發明ス而メ此書ハ一ニハ往昔
著述者ノ説ニ由リ一ニハ海陸ノ軍將此術ニ考
精ナルモノ、見ニ從テ記シ且ツ我知蘭ノ海濱
險隘ナル地ニ於テ五年間經驗スル所ノ説ヲ附

録ス然レ氏此学ハ唯經驗ヲ貴フ故ニ余等海濱
防禦ノ術ニ関スル諸事ヲ見ハ諸軍將願クハ告
示セヨ此術ニ暗キ徒ハ此書ニ由テ以テ發明ス
ヘシ

トムエングェルベルツ識

防海試説總目錄

第一篇

海濱防禦ノ總括

第二篇

海濱ノ防禦スベキ岬ノ製造

△石塔

β海濱臺場

防禦スベキ海水ニ從テ臺場ヲ築ク位置

第三篇

の海濱臺場ノ水面ニ出ル高サヲ録ス

右胸壁ヲ築タル海濱臺場ノ側面

し海濱臺場内部ノ結構

以海濱臺場ノ造營

て敵軍精兵ニテ襲來ルヲ防禦スル術

元ヘカセマテールデキエストハツテレイン

ツケアリンデールデキエストハツテレイン

元大ナル「ホム」避ノ上ニ築クル臺場

し海濱ノ臨時ニ備フヘキ處

第四篇

海禦ノ要説及ヒ砦堡府城ノ築造

第五篇

海濱ノ防禦スヘキ地ニ銃砲ヲ備ル事ヲ録ス

第六篇

海濱臺場兵士ノ活法

第七篇

防海援助ノ水軍

防海試説卷之一

第一篇

海濱防禦ノ總括ヲ録ス

夫海防ノ術ニ於テ專一ニ成ヘキ事ハ敵ヨリ侵
サント欲シ未タ兵ヲ交サル時ニ於テ我之ニ應
スルノ備アルヲ十分ノ守禦トス○此ニ由テ之
ヲ考フレバ海禦ノ事ハ實ニ危殆ノ者トス是我

カ屢目撃スル處ナリ如何トナレハ敵ハ活兵ナ
ルヲ以テ其運動甚夕自在ニメ我兵ヲ惑ハシメ
以テ巢中ニ陷テシムルニ由ル是ノ如クナルヲ
以テ廣斥ノ海濱ニ於テハ最モ至事ナリ蓋シ海
濱廣キ一^二時行 本朝ノ一時彼
ニ時ニ當ルノ地ハ急ニ臨
テ其岬毎ニ尽ク兵ヲ備テ敵ヲメ上陸セシメサ
ル^一難キヲ以テナリ○是故ニ海防ハ陸軍ニ比
スレハ大ニ艱難ナリ是敵ノ進退神速ニメ何レ
ノ岬ニ兵ヲ備ヘ宜キヤ圖ノ得ベカラザルニ由

テナリ

廣濱ノ全面ヲ保ツ^一ハ上ニ示スカ如キヲ以テ
直チニ^一モビ^一レ^一レ^一ゲルアフテ^一サ^一ン^一グ^一ニ^一海濱
遷セシムル軍隊ニテハ防キ難シ故ニ先ツ隊伍
ヲ云尚考ヲヘシニテハ防キ難シ故ニ先ツ隊伍
ヲ備ヘテ防禦トシ^一テ^一リ^一エ^一フ^一ゲ^一ト^一ロ^一ツ^一ケ^一ン^一ヒ^一エ^一ン^一ト^一ニ^一字
ハ相及スル岬ノ意ナリ海濱ノ入込^一ン^一タ^一所^一又ハ
海濱ノ隊伍ノ後部ニ當ル岬ヲ云フナルヘシ
ニ於テ遊軍ヲ備ヘ之ト相合スヘシ○凡ソ隊伍
ヲ備ユルノ地ハ下條ノモノヲ撰フベシ即チ
第一 敵上陸スルニ最モ容易ナル海濱諸部ノ

近傍

第二 敵兵ヲ備ヘテ寇掠ノ術ヲ為ニ甚タ利アル地

第三 敵ノ往來スル港口或ハ海峡是レ敵ヲ往來ヲ妨ケ且ツ困厄セシメシカ爲ナリ

第四 上ニ出ス三條ノ外ニモ海岬ノ守禦シテ堡障港津ヲ堅固ナラシムベシ

海濱防禦ノ要務ヲ知ント欲セハ上ニ挙ル四箇ノ條目ヲヨク區別ノ以テ觀察スルヲ要ス

第一條

按スルニ前ノ第一ノ処ナリ晴天ノ日平行ナル海汀ニ

從テ歩シ屢々ニ小舟ヲ浮ヘ堤ニ傍テ來ルヲ見

ハ此海濱ニ於テ敵上陸ニ利アルヲ見ルヘシ又

此處ニ於テ防禦スルモ利ナキヲ察シ得ナリ

或ハ又暴風地方ニ向テ吹時ニ小舟ヲ浮ヘ試ム

ヘシ其船海濱ニ碇ヲ卸シ定泊スヘキ処ナキ寸

ハ暴風ノ爲ニ破壊セラル其危殆直チニ見得ヘ

シ○是故ニ海濱敵ノ上陸スルニ利アリヤ否ヤ

ヲ知ント欲セハ唯外表ノミニ由テ察シ得ヘカ

ラス好キ海圖及ヒ居人ニ從テ向学セ海中ノ形
状及ヒ碇スヘキ處ヲヨリ檢索スヘシ 動モスレ
ハ洋中ニ
モ碇スヘキ ○此ノ如キ處凡ソ陸地ヲ去テ三里
處アリ
海里ハ一度六十分ノ一トス故ニ餘ニ至ル寸ハ
一千八百五十二「エルレ」ト同シ
上陸利ナシトス蓋シ上陸スルニハ去陸三里ヲ
適當トスルヲ以テナリ○凡ソ海岬第一條ニ示
ス規則ニ當ルヤ否ヤヲ知ント欲セハ此條ニ示
ス所ノ事ヲ探索セサル可ラス若シ近傍ニ舟ヲ
繫ク所ナク或ハ近クヘカラサル處ハ防禦スル

「ヲ要セス此ノ如キ地ニテ強テ防ニトスル寸
ハ却テ害アリ故ニ之ニ兵ヲ費サス他ノ岬ニ由
テ防クベシ 和蘭海濱ノ如キ平行ナル地ナリ海
濱臺場ニ付テ我後許多ノ通利ヲ付
ルハ「子」デルラン「レ」ノ水濱海港ノ形勢ヲ原ク
「ヲ」知ラシメ「ン」カ為ニ此ヲ經驗セリ○是故ニ
海濱往來スル舟ヲ禦ク「ノ」主トスル臺場ハ茲
ニ示サス蓋シ「子」デルラン「ド」ノ海汀ハ乎ニノ
船モ海濱ヨリ連キ度ニアラスニ
ハ泊ル「ヲ」能ハサルヲ以テナリ
一千八百三十七年著述「メモリー」シユルラデヘシ
セエ「ル」アルケメントテスコテヌバリス 書名
第十六葉ニ云ク低平ナル付濱ハ都テ防禦スル

一ヲ要セス○海水ノ浅処及ヒ船ノ往來シ難キ
礁アル寸ハ敵舟ヲメ全ク海濱ニ近カサラシム
故ニ「モビーレバツテレーン」恐クハ車臺ノヲ備ヘ
ヲ以テ敵ノ向所ニ從ヒ速ニ轉置ノ防ガヘシ
前條ノ説ハ一般ニ通シ難シトス海水湊ノ及ヒ
礁有テ舟ノ往來シ難キ所ヨリ「エニゲルス」人「
ンケルスロシヤ」人上陸スルコトアリ一千七百九
十九年及ヒ
一千八百九年ノ「然ル寸ハ第二節」前條ノ海水以
下ノ指テ云フハ通
シ難キ「明ナリ」

註余此書中ニ於テ屢「メモリー」上ニ舉ルヲ引
クモ「メモリー」ハ甚タ簡易ニメ大要ヲ得ル就
中「フランス」海濱ノ谷「ヲ」記スト余氏我等ノ
知所ニテハ海防書ニ若クモノナシ
大抵一國ノ疆界ニ於テハ亘キ防禦スヘキ山岬
アリ海濱ニ於テ亦多クハ鬪戦スヘキ岬アリ故
ニ敵之ニ於テ侵掠シ易シ例スルニ著シキ海港
ニメ國中ヨリ通ス大道アリテ許テノ作葉ヲ為
處ナリ○然レ氏此ノ如キ地ハ多クハ備禦アル

モノナリ若シ此地ヲ敵ニ奪ル寸ハ敵爰ニ居住
ノ命令ヲ發シ且ツ兵糧ヲ貯ヘ鬪戦ノ生トノ大
ニ利ヲ得ルヘシ○勤モスレバ我防禦スヘキ岬
或ハ國界ノ防クヘキ處アリテ之ニ備フル兵ノ
後或ハ側ニ有テ主ト成テアリ然ル寸ハ某防禦
最モ緊要ナリ防禦スベキ地ハ軍船
往來スル處ヲ云フ
船ノ往來スヘキ港口或ハ海峡ヲ守防スルハ之
ヲ堅固ニセンカ為ナリ而シテ勤モスレハ達シ難
キナリ○海峡ニ備フル中ハ敵船必ス砲大ノ

達スル所マテ帆ヲ揚來ルヘシ但シ其間一千二
百「エ」ルレシナル寸ハ適宜ナルカヲ用ユヘシ總
カノシ達スル度ハ一千五百セルレシニ過キス
然レハ舟ノ往來ヲ全クセント欲スル寸ハ六十
「ボ」ン「ト」及ヒ八十ボントノカノシ○其他尚臺場
ニテ此町數ニ過スコト勿レ
ハヨク備ヘスンバアルヘカラス下條ニ於テ示
スヘシ

港口廣キ寸ハ海水多クハ兩岸ヲ太テ遠ク流ル
此ノ如キ所ニ築タル臺場ハ防禦ノ用ニ達難
シ○然レハ其海濱ヲ取テ稍狭ク成寸ハ敵舟兩

間ヲ通行スルヲ能ス此ノ如キハ甚ク要害ナリトス

註防禦ヲ以テ狭ク成寸ハ例スルニ「コルフハ

「イ」或ハ突出シタル「ハーヘン」等ナリ議按スルニ其

港口ニ洲渚ノ如キ
在地アルヲ云フ

第四條海濱ノ大砦或ハ其他要地ノ防禦スルハ軍術ニ於テ難事ナリ是故ニ堅牢ナル許多ノ臺場ヲ築キ守ルニ非スニハ其術アルヲナシ蓋シ砦ハ數艘ノ軍船ノ砲大ニ由テ直チニ破滅ス可

キヲ以テナリ○此ノ如キ處ニ於テ砦ヲ築ハ別ニ精密ナルヲ要セス唯胸壁ヲ堅固ニメ後部ニ許多ノ大砲ヲ構ヘ敵ヲ却退セシムヘシ○上ノ如クヨク備ルモ其地直チニ深キ海水ニ臨ム寸ハ「ボム」ノ來ルヲ避ルヲ能ハサルヘシ如何トナレハ「ボム」ムルテ「ルラル」ヘウテン「ボム」ヲ發射スル毎ノ各ニ備フル「ゼ」モルチ「ル」ハ最モ大ナル「カ」ノ「シ」ノ精勤用フ成ヨリモ煩ル遠ク達スルヲ以テナリ○砦ハ水干ノ距ル「三」午「エ」ル「レ」ニ減ス

ル一勿レ是甚夕利益アリテ規則トナルヘシ此
ノコトタスル寸ハ「セ」モルナールモ恐ルニ足
サルヘシ○海津及ヒ湊ニハ教箇ノ臺場ヲヨク
攝ヘテ以テ防禦スヘシ軍船或ハ其他ノ船ニテ
防禦スルヲ云ニ非ス○
此事作ハ下條ニ於テ示スヘシ勤モスレハ海陸
ニ軍相合ノ防禦スル「ア」アリ後篇ニ示スヘシ
然ル寸ハ其臺場ノ火線急峻ナル十字形ヲ成ヘ
シ
上ニホス數事ヨリノ海濱ノ防禦スヘキ岬ニ於
テ臺場築造ノ事ヲ周説スルニハ航海ノ學問緊

要ナル「ア」實ニ粲然タリ○航海術ノ得ント欲セ
ハ精密ニノ新撰ノ巨キ海圖ハ缺ヘカラス如何
トナレハ古キ海圖ハ精密ナリト虽凡方今海濱
ノ地形ト符合スル「ア」定ノ難キニ由テナリ假令
ト吾ラサルモ和蘭ニ於テハ形状大小モ不同ナ
リ○其船師ニ就テヨク問學ハスレハアル可ラ
ス然レ氏進退ハ水上ニ在テ舟ニ從テ其形勢多
端ナルヲ以テ自テ海軍ノ將トナリ試ムヘシ蓋
シ他人ノ容易ニ成ヘキ事トスルモ實地ニ臨テ

屢然ラサルヲアルヲ以テナリ

是ニ於テ第一條ニ記スルモノヲ觀察セント欲
セハ海汀及ヒ國界ノ形状ヲ注目スヘシ第二條
第三條ノ者ハ其他ノ經營及ヒ合戦ノ模様ヲ注
目シテ成スヘシ○又砲家海軍ニ用ユル砲發遠
進ノヲハ前ノ數條ニ示ス如ク甚タ要ナリトス
前ノ數條ニ於テハ海濱防禦スヘキ地ノ經營ヲ
總括ス下條ハ專ラ防禦ノヲヲ録ス爰ニ先ツ敵
軍ヲ退去シムル軍隊ヲ用ル總法ノ録セル

最要ノ地ニ於テ本陣ノ構ヘ別ニ游軍ヲ備フル
事ハ既ニ卷首ニ記セリ但シ游軍ハ海岬ノ地ヲ
撰テ之ニ備ヘ急ニ臨テ本陣ト合スルニ便利ナ
ルヲ要ス○游軍ノ居処ハ其時ノ模様ト其地
形ニ從テ備フルト雖凡通常用ヘキ法則アリ下
條ニ擧ルモノ是ナリ

の所謂ル「フルドンステルセル」
「スヒール」
「ゴルトン」ハ辞書
ニ云フ「ゴールド」
從フ系ノ連續ナルカ如ク軍隊締ニトメ相連ル
ヲ云ノ悪キ事ハ常ニ世人ノヨク知ル処ナリ其

危キヲ海濱ニ軍隊ヲ充滿ノ敵ニ其首ヲ授クル
カ如クナリ然レハ我徒ハ軍隊ヲ海干ヨリ稍遠
ク二三箇ノ岬ニ居シムルヲ以テ第一ノ規則ト
スルナリ

○巴カ上陸シタル敵軍ニ我地ヲ奪フナカラシメ
ルニハ務テ我軍隊ヲ速ニ進シムルヲ要ス而
メ必ス捷疾ノ佳道ニ從テ奔シメ疲労セシムル
ヲ勿レ尚此ノ如キ路ヨリ行ハ前軍已ニ敵ト相
接スル時ニ於テ亦甚要ナリトス

○海濱ニ敵ノ上陸スルニ甚タ便利ナル地アル
寸ハ直ニ水干ニ接スル処ヲ撰フヘシ○然レ
モ常ハ中央ノ地ノ撰テ居シノ敵來ルニ臨テ速
ニ分配シ得セシムヘシ蓋シ水ニ最モ近キ寸ハ
我軍ノ右若クハ左ニ上陸シタル敵ヲ防クノミ
故ニ其軍ノ内部ヲ敵ニ奪レ方一此軍利アラサ
レハ此處ヨリ侵掠セラル、ヲ以テナリ

○敵軍我海濱ニ近キ及ヒ上陸セントスル形様
ハ速ニ知スンハアル可ラス因テ常ニ海濱ニ候

者ノ置テ告シムヘシ○存候ヲ勤ル輕兵及ヒ
ンドストムル候更ノ義ナリハ別ニ戦功ヲ要セスト
氏先ツ軍隊ノ騷動ヲ制シ敵ノ侵掠スル等ヲ防
クヘシ此ハ就中天度篇於テ示スヘシ
前ノ数條ニ於テハ游軍ノ大要汰ヲ説ク下條ハ
一處ニ定ムル地ヲ防禦スル目的ヲ示スヘシ敵
ノ望來ル地平常如シサル寸ニハ海濱ノ侵掠セ
ラルヘキ處ハ尽ク速ニ備スルハアル可ラズ是
我隊伍ハ上陸スヘキ地ニ移スヘキヲ以テナリ

而メ最要地一箇處ヲ敵ニ奪ハル、寸ハ恐クハ
此ヨリメ我全隊崩レ其敵計ル可ラズ且ツ此ニ
至テハ假令全地ヲ奪フ能ハサルモ此處ニ足ラ
止メ居スル基ヲ成ヘシ然レ氏ヨク防禦スル寸
ハ敵敢テ如此ナルヲナシ○堅固ニスヘキ地ヲ
十分ニ説ク防禦スルハ我徒ノ語ヲ待スメ分明
ナリ然ルニ世人十分ト云字ニ由テ何事ヲ解ス
ルヤヨク自ラ監得スヘシ
十分ノ字義ハ國中敵襲ヒ來ルニ臨ンテ砦ニテ防

禦スル寸ノ字意ト同一ニ解スヘカラス如何ト
ナレハ界上ノ危キ処毎ニ尽ク防禦スル寸ハ全
國ノ兵ヲ尽スト虽氏恐クハ不足ナルヘシ或ハ
其兵甚夕疲勞ノ原野ニテハ敵ヲ退去スルヲ能
ハスノ敗走スヘシ又甚夕弱キ砦ニテ敗スルヨ
リモ其害面甚夕シキヲ以テナリ

強剛ナル海濱ノ防禦ハ少キヲ佳トス而フノ其
數ハ烈キ敵ト敗ヤスノ相戦フ以テ足りトス漫
ニ許多ナルヲ要セス○尚之ヲ減スル寸ハ動モ

スレハ其砦ヲ守ルニ足サルヲアリ又人ヲ加フ
ルニ其形状悪クノ加フヘカラサル寸ハ緊要ナ
ラサル所ヲ減ノ他處ニ加ヘ敵ニ侵掠セララル
トナキヲ要スヘシ○若シ敵ニ奪ル寸ハ國ノ
面目ヲ失スルノミニ非ス他界ヲ侵ス術ナシ又
ハ我銃砲ヲ奪ヲ以テ侵シ來ルヲアルヘシ
上ニ定ル軍隊ノ數ハ海汀ノ「ワアテン」^{「ヒウケツテニ」}
「アルケンニンゲン」^{各箇ノ軍隊ノ名}等ノ備ニ緊要ナル
人數ニ由テ其地毎ニ足數アリ○然ル氏全軍ノ

中ニテ敵ト相戦フモノ、ミヲ数ハシ故ニ病者ハ此數ニ入ヘカラス海濱ノ氣候悪シキ処ニテハ病者全軍ノ四分一ト過ルコトアリ海濱防禦ニ於テノ難事ハ砲數少ク且ツ砲師少キニヨリ生ス故ニ近國ノ砲師ノ備ニ備フヘシ然レモ海軍ニ巧ナルモノアリ又陸軍ニ巧ナルモノアリ常ニヨク熟煉ノ巧ナルモノ及ヒ騎士等ノ中ヨリ撰ヒ備ルコトヲ要ス○海濱ノ臺場ニ於テハ一箇ノ砲ニ一隊ノ人數ヲ備フ是海軍ニ

テハ連發スルコトヲ主トセサルニ由テナリ陸軍ニ於テハ否ラス○又砲師少キ寸ハ病者ノ外ニ一箇ノ砲毎ニ「カノン」ルス二人ヲ配シ其他ハ從者手傳スル人ヲ云フヲ用エヘシ然レモ此汰モ未タ十分ナリトシ難シ誤ヲ生スル基トナラシ此ノ如クノ砲師エナラサルモノ出ルコトハ「フヒシール」及ヒ「ランドル」ヲヒシールノ役ヲ勤ルコト能ハス是他人ノ勤メ得サル所ナリ○ソルクーテニハ從者ノ役ヲ勤レヒ騎士ノ役ヲ成スコト能ハス故

ニ砲師トナシ難シ何トナレハ其大要ヲ知氏自
ラ親ク成サルヲ以テ熟煉セサルニ由テナリ
上ノ教條ニ於テ要事ヲ示ノ後我徒ノ真ノ目的
ヲ示スヘシ之ニ由テ海濱防禦ノ要事分明ナル
ベシ然レ氏上ニ説ク処ノ理ハ何レノ要トナルヤ
疑フ人アルヘシ蓋シ其意高遠ナルヲ以テナリ
○我徒ノ見ヲ以テ考レハ小勢ノ軍兵ヲ指揮ス
ルハ「ヲヒレール」ニ任シ其他ノ總將ノ命ニ從フ
ヘシ是レ事ヲ高遠ニスルニ非ス緊要ナル目的

ヲホスノミ上ノ事ヲ誤解スル人ハ大ナル害ヲ
起スナリ例スルニ防禦スル人少キナハ「ヲヒレ
ニドル」ヲヒシール等 遂ニ敗走スルニ至ル然レ
ノ如キ人ヲ云フ 強敵ヲ防クニ優劣ナク相戦ノ兵アレハ假令
ト敵兵ニ圍ル、モ更ニ患ヒナシ如此寸ハ兵士
ノ疲労ナキ「ヲ要ス」ヘシ將タル者ハ常ニ自ラ
兵ノ氣ヲ勵ミ務サル可ラス

註本條ニ示ス所ハ甚タ緊要ナル「ヲ」ニノ軍事
ニ上達スル階梯ナリ而メ又ヨク務ル「ヲ」ヒシ

「ル」ハ戰場ニ臨テ尙身ヲ工夫ノ費シ名譽ヲ顯
ス「ヲ」要ス古諺ニ云「クヒ」セ子ラ「ル」ニ登
ント欲スル「ソ」ルグ「ト」レアリ又從ニ歲月ヲ經
テ老年ニ及ンテ漸ク「セ」子ラ「ル」ニ至ルアリ
トヨク此言ヲ以テ自ラ成ヘシ

上數條ニ於テハ都テ國畧ニ一箇ノ兵ヲ以テ備
ル「ト」ヲ録シ尙之ヲ防クニ民兵ヲ用ユル「ト」アリ
是本營及遊軍ノ間ニアル平地ヲ防カシメ上陸
ヲ妨ルヲ云如此備フ寸ハ敵兵海路ヲ越來ル故

ニ多クハ侵シ來ル「ト」能ハス 本條ノ如ク備ルハ
雜費甚ク多シ故ニ

兵士ハ多キヲ佳トスト金片漫ニ
加アル「ト」勿レ必ス足限アルナリ

敵兵群リ來ル寸其後部若クハ側部ニ兵少キ寸
ハ民兵ヲ出シ防カシム然レハ兵士多キノミニ
アラス地理ヲヨク諳スルノ利アリ然レハ民兵
君ノ為ニ身ヲ抛ント欲セサレハ危キ「ト」アリヨ
リ「ノ」注意スヘシ○凡ソ陸戰ニ先ヲ陣破ル寸
ハ直ニ民兵ヲ以テ之ヲ防クヘシ民兵ハ敵ヲメ
退シメ又進來ルヲ全ク防ク「ト」能ハサレモ只其

り 働
ヲ 妨
ク へ
シ 然
レ 氏
山 地
ニ テ
ハ 又
一 種
ノ 一
ア

